

平成22年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成
自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）
健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）
＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

- ◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校
- ◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校
- ◇ 家庭や地域とのつながりを大切に、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ① あいさつの推進（心から、自ら進んで、元気に、相手の目を見てあいさつができる子をめざす）
- ② 授業の充実（楽しく、分かる授業をめざす）
- ③ 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- ④ 道德教育の充実（豊かな心と道德的実践力の育成をめざす）
- ⑤ 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- ⑥ 「食の豊かさ」を追求する食育指導の充実（「生きる基本としての食」の意識づけをめざす）

4 今年度の重点目標（短期的視点）

☆本年度の努力点

（学校運営）

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置づけ、道德教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図りたい。

☆ 教職員として職務意識の高揚と自主課題に基づく実践研究等による資質の向上に努める。

（児童生徒指導）

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 基本的な生活習慣を身に付け、互いに認め合うことのできる児童を育成する。

（健康・体力）

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・性教育・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

（学習指導）

指導方法等の工夫により、基礎的・基本的内容の確実な定着を図るとともに、問題解決的な学習や、体験的な学習を適切に取り入れて、学ぼうとする意欲や態度を育て、児童にとって「分かる授業」を実現する。また、授業において、受容的で共感的な話す・聞く能力や態度の育成を通して人間関係力の育成も図る。

☆ 基礎・基本の確実な定着を図り、考える授業・話し合う授業を進める中で、互いに学び合うことのできる児童を育成する。

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）

評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施

自己評価時に、方向性：A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止を記入する。

項目	評価指標	主な具体的な取組
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。特設時間の他に児童会中心に「なかよし班で遊ぶ日」「きょうだい学年で遊ぶ日」を設定し実施する。 ② 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、大切なことをしっかり教え、熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ロング昼休みの時間等を有効に活用し、児童一人一人を見取り、声をかけ、よく話を聞き、よいところは認め、指導すべきことはしっかり指導する。 ② 保護者や地域の方々と積極的にコミュニケーションを図り、誠意を尽くした対応に努める。来校者・電話・連絡帳等には、速やかに親切に対応する。 ③ 学校校経営への参画意識をもち、担当の校務分掌業務に対して、主体的に取り組み、効率的な運営・改善を図る。 (新たな発想プラスワン企画、自分の得意分野を伸ばす、互いに支え合う組織づくり)
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「生活と学習・10の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、6月・11月・2月の3回自己評価をする。 ② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定と、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。生活の振り返りを行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確化し、「分かる授業」の具体的方策を工夫し実践することで授業力を高め、授業や学習をより分かる楽しいものにしていくことにより、学力向上を図る。 ② 自己研修と授業力向上のためICTを活用した「一人一研究授業」を実践する。 ③ 「『宇都宮市学校教育スタンダード』に基づく授業力向上について」の「分かる授業」チェックリスト（自校化したもの）を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。

	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、学校での生活や様々な活動が充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年度の反省を生かした企画・立案による諸計画を実施する。学校行事や授業等では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定したり、適切な支援を行うなどしたりして、児童の成就感や存在感を得られるような行事や日課になるよう継続実施を図る。 ② 実施後は、次年度の教育課程に反映させるため、教職員、児童、保護者による行事アンケート、授業アンケート及び「自己点検カード」を記入し、改善策を検討する。
学 校 運 営 の 状 況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業参観や「オープンスクール」には、地域の方々や近隣の小・中学校及び幼稚園・保育所などにも呼びかけ授業等を公開するとともに、授業の概要や解説など用意して、より理解を得られやすくする。 ② 学校評価書や児童の学習・体力・生活の状況、危機管理などの情報は、その都度分かりやすく迅速に知らせるようにする。 ③ 校長室だより、学年だより及び各種だよりの発行やホームページの充実を図り、学校教育活動を積極的に発信する。その際、情報のあり方を工夫改善しながら、情報提供の質・量を高める。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、地域や企業の方々と一緒に活動したり勉強したりすることで、学習が充実し楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 昨年度の取組を継続実施していくとともに、児童が様々な人とかかわりながら学ぶ場として、地域の幼稚園・保育所との交流活動を推進し、「五代夏まつり」にも積極的に協力する。 ③ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすく気持ちのよい環境である」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 校舎内外の整備・保全及び教室や教材教具の整備・補充など努め、学習意欲を高める掲示や季節感ある環境構成を工夫する。 ② 昨年度に引き続き、学年清掃を行い、日常の清掃指導の徹底を図るとともに、児童の活動を細やかに見取り、適切な指導と賞賛を重ねることにより、清掃の仕方を身に付け、自分たちの学校の美化に努めようとする意識を高める。

		A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。 〔全〕 【数値指標】 保護者アンケート「学校は教職員が互いに指導力向上に取り組み、指導の工夫・改善に努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童指導委員会、特別支援委員会、校内研修会等を計画的に行い、課題や現状をふまえ、ねらいを明確にして検討し、具体的な指導法について実践化を図る。 ② 懇談会、個人懇談等で、学級経営方針の説明や進捗・達成状況を伝えたり、授業の意図をより分かりやすく伝えたりして理解を得ていく。 ③ 児童理解のための各種委員会の充実を図るとともに、授業力を上げるために、一人一人の教員が自己研修として「分かる授業」を工夫し、実践する。 ④ 児童の理解を深め、表現力を高めるためにICTを活用した授業を積極的に行う。 ⑤ 考える授業・話し合う授業を意図的に組み入れ、児童同士が学び合うことができるようにする。
		B1 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「自分は、家庭で学習する習慣ができている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 昨年に引き続き、低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明に心がける。
教育活動の状況		A10 元気にあいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童はあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、臨機応変にも対応する。その際、保護者や地域の方々の協力を得ながら、校内外であいさつ指導の徹底を図る。 ② 「生活と学習・10の約束」の常時指導の結果を、教師も児童も常に振り返るようにする。
	生活	B2 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「自分は楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① いじめの早期発見・早期対応のため、4・6・11・2月に「学校を楽しくするために」アンケートによる実態調査を実施する。 ② 「うつのみや いじめゼロ宣言」を活用し、いじめゼロ運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成する。（5月、10月 いじめゼロ強調月間） ③ 教育相談月間「おはなしタイム」（年2回）を充実させるとともに、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ④ 学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ⑤ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。 ⑥ 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。

健康・体力	A11 毎日朝ごはんを食べ、好き嫌いのない食事をしている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「自分は、好き嫌がなく食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育パンフレット」や食育ビデオを活用した給食指導の充実を図り、望ましい食習慣と食事マナーを身に付けるようにする。 ② 学級活動の「食に関する指導」の授業を行う際に、学校栄養職員と協力し、食事の重要性や望ましい栄養の取り方などについての理解を深められるよう指導を工夫する。 ③ 「食育だより」等を通して、より一層の情報発信に努め、家庭における食育の推進を図る。 ④ 昨年度に引き続き「お弁当の日」を設定し、食事について親子で考える機会とし、児童自身の体の成長や食への関心を高め、感謝の心を育てる。
	B3 進んで運動に親しみ、健康の保持増進を心がけている。 【数値指標】 児童アンケート「わたしは、よくうんどうし、けんこうにきをつけている」「自分は進んで運動し健康に気をつけている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「元気っ子健康体力チェック」を全学年実施し、その結果をふまえ、児童の実態に応じた指導を徹底する。 ② 「うつのみや元気っ子プロジェクト」のミニマム達成のために、運動プログラム集を活用し、最低限身に付けさせたい体力や技能の習得に努めたり、準備運動にサーキットトレーニングを取り入れたりして、教科体育の充実を図る。また、運動の日常化を図るため、児童が意欲的に取り組めるような学習カードを充実させる。 ③ 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ、新型インフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。 ④ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ⑤ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。
	A12 授業に熱心に取り組む、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 児童アンケート「児童は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業で学習した漢字を正しく読んだり書いたり、整数・小数・分数の基本的計算を正しく計算するとともに、朝の学習の時間や長期休業を利用して漢字・計算力の向上を図る。また、習熟のための時数を確保し、指導の充実を図る。 ② 教室に掲示してある「学習の約束」を時々読み合わせるなど確認したり、自己評価を行ったりするなど意識付けの継続を図る。

	B4 読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は読書を好み、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。 ② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入に心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。 ③ ボランティア（「おはなし会ぽけっと」や「雀宮おはなし会」など）や委員会児童による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。 ④ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通したコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。
本校の特色・課題等	B5 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 【数値目標】 児童アンケート「児童は、進んで挙手し、大きな声で発表するなど授業に対して積極的に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 国語科の学習では「書く」活動を継続して指導し、児童が自分の思いや考えなどを的確に表現できるようにする。書くことによって考え、まとめ、伝える力を育成する。 ② 豊かな表現力を育む音楽活動において、聴く力や感じる取る力及びコミュニケーション能力における学び合う力、伝え合う力の育成を図る（昨年度の学校課題研究の継続）。 ③ 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。 ④ 日常生活の多様な場において「書く」活動を取り入れ、掲示資料や具体的な活動を通して、他者に分かりやすい表現の仕方など、表現力の育成を図る。 ⑤ 児童の理解を深め、表現力を高めるため、ICTを効果的に活用した授業を展開する。 ⑥ 児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を進める。 ⑦ 授業参観後の懇談会等で、表現力育成のために工夫していることや個に応じた指導について説明をするなどして、保護者の理解を得るように努める。
	B6 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校（高学年：道徳や授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 道徳の時間では、児童の心を揺さぶるような感動教材や身近な資料、心のノートを有効に活用し、心に響く授業の展開に努める。 ② 全校一斉に道徳の授業参観を実施する。 ③ 縦割り班活動や異学年交流などのふれあい活動やなかよしチャレンジ、一日先生などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。